

(1) 単元名： 分数のたし算とひき算

(2) 本時の目標： 帯分数の減法計算の仕方を理解し、その計算ができる。

南城市立百名小学校の玄関である。きれいの一言である！
当たり前かもしれないが、その当たり前の難しさとお切さを元沖縄県教育長は『凡事徹底』と言いました。確かにそうである。こういう当たり前が当然のようにできることは誇れることである。しかし、校内の一人の教師でもこの共通理解と実践からずれが起こるとはいかない。つまりこの学校では教師達の共通実践の準備は整っているといえるのではないだろうか。校長と一部の教師たちの頑張りだけでは決してこうはいかない事実を私は何度も見てきた。



期待できる学校である。「学び合う学び」への挑戦は始まったばかりである。焦らずゆっくり進みゆけばと切に願う。焦りは絶対に禁物！教師たちの「私なりの挑戦へ」エールを送りたい。ゆっくりでいい、立ち止まることだけを恐れてみんなでゆっくり進みゆく。研究理論や理屈、これもゆっくり進みながらみんなで明らかにしていってほしい。子ども達に楽しくやらしてもらうためには、まずは教師たちが研究を楽しみながらやろうという姿勢が大切である。自分たちは「苦しい」のに「子ども達は楽しくやれ」これは不可能である。

11:35 授業開始前の黙想、・・・息を整える、心を落ち着かせる等、すべての教師が「なぜ黙想をやるか」を同じように子ども達に語れるようにならなければならない。



教師の言葉と表情がいい、静かな言葉が、しっかり子ども達の心に届いているのを感じる。
授業者は「教えて考えさせる」授業の理論と「学び合い」を取り入れていきたい授業づくりで両理論の矛盾や方法論に不安や疑念があるらしい。…素晴らしい！「僕なりに」を確立したいから迷いや悩みが出るのである。しかしこの



迷いや不安は授業中の教師の表情には全くうかがえない。子ども達に気づかい、謙虚に自分の授業を見つめる「子ども達は…、子ども達を…」授業で子ども達を支えたい当たり前の教師の姿である。

11:38 前時の復習(黒板)の確認から教科書(デジタルTV)の続きの問題をやるように指示した。



写真①



写真②

写真①の教師の話に聴き入る、写真②子ども達の眼である。素晴らしい、教師の言葉もやわらかくゆっくりである。子ども達の表情を伺いながら交わされる会話、これが「対話的コミュニケーション」である。「分かってほしい」教師の心と「分かってほしい」子ども達の息づかいまで感じる。この時点で明らかなのが、教師が「分かってほしいこと」を「伝

える」だけになっていないことである。つねに子ども達の言葉や表情に対応していることである。子ども達は「聞かされている」印象を決して持たないだろう。なぜなら授業者が子ども達に向かって気遣いながら話し、さらに子ども達の「分からない」を分かってあげようとして聴いているからである。子ども達の状態は発言よりも、まずは仕草や表情に出るものです。その言葉や表情を見とって授業をデザインしていくのです。難しいようだが日常的に結構、無意識に実践されている教師達も多い。写真③、授業者は教科書の続きの問題をやるように指示した残念ながら「話し合う」は促されなかった。しかし写真の子らは、二人でより添ってぶつぶつぶやきながら「分からない」や「これでいい」の対話が交わされている、まさにこれが学び合いである。学び合いは発表のし合いではありません。「学び合い」は分からない者からの訊く行為による、ほそほそ発生するものなのです。写真④、この男の子の仕草どう見ます？…「俺は分からないから困っている。」ですよね。早く終わってただ座っている隣の女の子に「教えて」の一言が言えれば彼は退屈せずに一緒に学べるのです。学びの教室の中に「分からなければ仲間」に訊くは必然です。唯一の指導事項です。「分からなければ訊く」。



写真③



写真④

11:45 授業者は問題をグループでやるように指示した。理屈抜き！写真の子ども達を見てほしい。



授業開始から約 10 分。授業者は一斉の学習形態から小グループ活動へと進んだ。教室の子ども達の表情が一変する。顔の緊張がさらにほころび、安心して「訊き合っている」和やか、柔らかさを感じる。当然一人も「学び」から外れる子は見あたらない、みんながぼそぼそと対話を交わす。右の写真 2 枚は夢中になると身を乗り出し仲間を支えようとするさらなる仲間達である。すばらしい！



写真⑤

写真⑤、前ページの写真④の男の子である。先ほどは分からないことが依存できず「困った」仕草をしていたが、ここぞとばかりに夢中になって仲間から「訊いている」。やはり小グループで仲間が向き合うことは分からないの可決のためにも有効であることを確信する。単純な「おしゃべり」か「学び合い」かは、子ども達のつぶやきを聴けばすぐに分かることではあるが、およそ深い思考や学びはぼそぼそとしたつぶやきで交わされていることを、我々教師が認識しておかなくてはならない。単純に明るく元気な発表がよいとするのは間違いである。



あることを確信する。単純な「おしゃべり」か「学び合い」かは、子ども達のつぶやきを聴けばすぐに分かることではあるが、およそ深い思考や学びはぼそぼそとしたつぶやきで交わされていることを、我々教師が認識しておかなくてはならない。単純に明るく元気な発表がよいとするのは間違いである。

11:55 《表現の共有》 表現の共有の目的は？「伝える」と「伝え合う」の違いはなんだろう？



「発表」と「共有」の違いはなんだろう？いい研究テーマができましたね。左の写真、子ども達の考えが教師に向けられている。誰に向けられるべきだと思いますか？右の写真、書いたことを読み上げている一生懸命な女の子ですね、大切なことは視線はどこに向けられた方が聴いてくれている側への心遣いになるでしょう。「伝え合う」は対話的コミュニケーションによって図られなければなりません。対話の対象は教師ではなく、教室の仲間達です。教師の仕事は「きく・つなぐ・もどす」そしてケアするが学びの授業では最も大切にされています。…これもなぜ？ 教室の子ども達は同じ仲間の発表はどんなにたどたどしくても親身になってきてくれるものです。左の写真、発表者の子ども達にデジタルTVとペンを預けたかったシーンですね。…信じられますか？



なるでしょう。「伝え合う」は対話的コミュニケーションによって図られなければなりません。対話の対象は教師ではなく、教室の仲間達です。教師の仕事は「きく・つなぐ・もどす」そしてケアするが学びの授業では最も大切にされています。…これもなぜ？ 教室の子ども達は同じ仲間の発表はどんなにたどたどしくても親身になってきてくれるものです。左の写真、発表者の子ども達にデジタルTVとペンを預けたかったシーンですね。…信じられますか？

12:00 1 回目の共有の後に、さらなる確認問題をやり教師がまとめる。

12:13 《ジャンプ課題？》：帯分数の引き算の虫食い算の問題をつくろう→ グループで 1 問作る。



写真⑥



写真⑦



写真⑧

グループでの協同的活動になる。夢中になりみんなが一生懸命である。写真⑥のグループでは「簡単なのは駄目よ。超難しいのにしよう。」の会話が交わされていた。子どもは簡単にはできないやり終えたときに達成感を感じる「難しい問題」が好きなんです。写真⑦、この男の子が一番問題作りに夢中であつたような気がします。いったん授業が終了した後、もう一度グループの中で確認しているところです。

N先生ありがとうございました。素敵な授業、素晴らしい仲間達です。今後も学級担任との連携を密にし頑張ってください。この学年と先生の授業をぜひ百名小のモデルにし、先生方みんながやっていけたらいいですね。算数の授業が「学び合う授業」の例としては分かりやすいのでまず手始めに算数科で全学年が実践することをお勧めします。シートの文中の「？」については、ゆっくり考えてみてください。そして何より校長先生のRシートと校長便り「いずみ」の目的と校長の思い・・・なぜ校長は？…素敵です。

国頭学びの会ゆい